

石路の里はこんな職場です



令和4年度

不適切な支援ゼロを目指す

- 利用者様の問題行動は、本人の表現「わかってほしい」という表現の現れである。何を伝えたいのかをしっかりと観察・想像し支援する
- 問題行動だけを注視していると、利用者様は自分の存在を否定されたと思い、防衛行動が生まれる
- 我々の関わり方を変えることで、利用者様の問題行動は無くなる。そのことを忘れず利用者様の行動・発言を承認し、利用者様にとって安心・安全な関係をつくることに集中する
- 福祉サービスを利用する利用者様は決して我々のサービスを望んでいないし、出来ればサービスを受けたくないと心の底から思っている、自分が自分らしく生きていくために仕方なく対人援助サービスを受けている事を肝に命じて、我々は仕事をしなければならない

開園し41年目

障害者総合支援法のもと

18歳以上の

精神・知的・身体障害者の方へ福祉サービスを届ける仕事です

法人沿革

- 1980年11月 社会福祉法人光輪会設立
- 1981年10月 身体障害者療護施設石路の里開設50床
(現在障害者支援施設石路の里施設入所50・生活介護60)
- 1987年 4月 重度身体障害者短期入所事業開始5床
- 1995年 8月 身体障害者通所事業B型開始
- 2004年 4月 認知症高齢者グループホームⅠ号館開所9床
- 2007年 4月 障害者相談支援事業開始
- 2009年 4月 障害者ケアホームつわぶきの家開所10床
(現在障害者グループホームつわぶきの家)
- 2013年 4月 認知症高齢者グループホームⅡ号館開所9床

法人基本理念

「誠心誠意」

とは

- この上の無い真心のこもるさま
- 嘘偽りなく真心もって事に当たる
- 誠をもって相手に接する正直な心

我々社会福祉法人光輪会が目指す介護の流儀

365ゼロゼロ作戦始動中

- 1 オムツ0をめざします
- 1 口から食べる幸せを守る、口から食べることを絶対に0にしないを目指します
- 1 プライバシーに配慮した365日入浴、毎日ピッカピカな利用者様を目指します

我々社会福祉法人光輪会は
ノーリフティングケアの法人です

- 1 利用者様・スタッフの安心・安楽・安全を実現
- 1 ケアの質の向上 → 褥瘡・拘縮予防
- 1 持ち上げない・抱え上げない・引きずらない

全居室に天井式リフター設置



ベッドからリフターを使い移乗



利用者様もケアスタッフも負担なく車いすへ





抱えない・持ち上げない・引きずらないケアを

A photograph showing a person being moved into a bathtub using a green lifting sling. Two men, both wearing face masks, are assisting the process. One man is standing on the left, holding the side of the tub, while the other is standing behind the person in the sling, holding the top of the sling. The person in the sling is wearing dark pants and patterned socks. The setting appears to be a bathroom or a care facility. The text "個浴槽へリフターを使い移動" is overlaid in yellow.

個浴槽へリフターを使い移動

A photograph of a hospital room. In the center is a stainless steel stretcher with blue padded sections and black handrails. To the left of the stretcher is a white wall-mounted sink. Above the stretcher, a medical arm holds various devices, including a white monitor or light fixture. The room has large windows on the right side with dark frames. The floor is light-colored and appears to be made of tiles or polished concrete. The overall lighting is bright, coming from overhead fluorescent lights.

寝た状態で洗体するストレッチャー



リフターで寝た状態で湯船へ降ろしていきます

寝た状態で排泄をするお座敷型トイレにもリフター整備





リフターで移動 利用者も介助者もやっぱり
安全・安心・安楽



三者共に喜ぶ仕事を

利用者様・働く職員・法人にとって良いことを実践していく

利用者様だけでもダメ

職員だけでもダメ

法人だけでもダメ



地域がら生産人口の減少により

求人をしてても募集が無い

退職者の補充がままならない

有料広告も掲載するが募集無

人材派遣会社にも地域希望者無

但し

無資格・未経験者のスタッフが定着している

実務者研修を補助金にて受講できる環境があり、職員受講し介護福祉士に合格者13名

3年前から計画で

外国人労働者雇用しか生き残る道はないと覚悟を決める

失敗を恐れず良い送り出し機関とのご縁を探す

技能実習生・特定技能(日本に在住者・外国の在住者)どれも雇用してみることに

外国人採用

2022年6月 技能実習生3年終了者 介護の特定技能者ベトナム人男性1名採用

7月 介護専門学校卒業生 介護の特定技能者ベトナム人男性1名採用

8月 ネパールから介護の特定技能者取得者女性2名採用

2023年1月 ミャンマー技能実習生女性2名採用(予定)

4月 ミャンマー技能実習生女性2名採用(予定)

どの制度が我が法人に合うか体験期間として、我々スタッフも外国人と共に成長・育成していく

また、技能実習制度・介護特定技能等の制度が今後、どう変化していくかを雇用することで身近に感じ、今後の制度変化に迅速に反応していく

それぞれ本人の意思を確認し

実務者研修を受講していただく(本人費用負担無)

介護福祉士受験対策を外部講師の手を借りて受講(本人費用負担無)

どう育成・定着させるか

- ★ 基本は、日本人も外国人も一緒
- ★ 介護に向くか向かないかが最大のポイント
- ★ 介護好きなら大丈夫
- ★ 文化・習慣の違いは時間と信頼関係の構築で乗り切れる
- ★ うそ偽りなく正直な気持ちで相手に接するしかない
- ★ 外国の方を通して、自分たちが学ぶ姿勢、自分たちの成長につなげる思いが大切
- ★ 不足している労働力の穴埋めではないことを、最初から意識しておく
- ★ 我々の大切な仲間であることを肝に命じる

育成カリキュラム

- ★ 施設の概要説明・日常生活の過ごし方等説明
- ★ 食事・排泄・入浴介助の体験
- ★ 片麻痺・全盲疑似体験装具による体験学習
- ★ 福祉用具等の体験・取り扱い研修実施
- ★ 指導責任者を決めマンツーマンにて指導(その他職員もしっかり係わる)
- ★ 毎週末、責任者と指導職員との面談実施
- ★ 出来る出来ないことの、手技のチェックシートによる可視化
- ★ 1ヶ月・2ヶ月・3ヶ月等その月毎のしっかりとした目標を設定
- ★ 出来てないことの反復練習(動画による自主練習)
- ★ 基礎介護がクリアー出来たら、指導職員のローテーションと同じ勤務へ
- ★ 指導職員の金太郎飴を目指す

利用者様・職員の反応

- ★ 利用者さまからは職員に対し、外国人職員に優しく指導する様・異国の国で大変だから見守ってほし等、気遣いの言葉が多く聞かれる
- ★ 介護の手技に関しての利用者様からのクレームはこの3ヶ月間ない
- ★ 利用者様とのコミュニケーションと記録は難しとのコメントあり
- ★ 仕事を覚えようとする意欲はすこぶる高い
- ★ 日本在住歴有りの外国人と、初めての外国人ではやはり語学力に差がある
- ★ 職員間の評判もいい、外国人というより一人一人の人間性が素晴らしい
- ★ 指導しながら、我々職員も気づかされるし、成長も出来ている
- ★ 施設内でコロナのクラスターが発生したが、感染対策もしっかり出来た
- ★ 一日も早く、一人立ちさせる事が我々の責任

今後の課題

- ★ 収入が安定するように、どうしたら早く夜勤業務に就けるようになるか
- ★ 転職をせず定着させるには、なにをすべきか
- ★ 地域がら施設内・施設外どこで、実務者研修を受けさせるか
- ★ 介護福祉士取得へ向けた、試験対策をどう実施すべきか
- ★ 外国人雇用人数は、全体職員数の何パーセントが適切なのか